

研修見学会に参加して

株式会社環境管理センター

伊藤 梓美

今回初めて研修見学会に参加させていただきました。普段分析業務に携わっている身としては、また、数年前の千環境の新人研修で教えていただいた「不確かさ」について、ようやく理解できてきた今日この頃でしたので、今回の計量標準総合センターの見学は大変興味深いものでした。

分析結果は標準物質と比較しての値ですから、標準物質の信頼性が確保されていなければなりません。そのため、使用した標準物質の値付けの元へ元へと辿っていくことで、国家計量標準に繋がり、その信頼性を公に証明できるトレーサビリティ制度が重要になってきます。今回はその国家計量標準の値付けを実際どのように行っているかをお話いただきました。

1つの物質の値付けに何ヶ月もかかり、様々の分析方法を試み、より真値に近い値を出す努力をされているという気の遠くなるようなお話をされていました。国際的な技能試験にも参加されていらっしゃるって、良好な結果を出されているって、印象的だったのは、計量標準総合センターと環境分析の相違点を述べられて、「皆様のような環境分析では、ある決まった分析方法で、様々な試料を測定するのに対し、私どもは、1つの物質に対して様々分析方法を試しています。ですから、こんな試料にこの分析方法だところこういうところがうまくいかないというような知識には感嘆させられます。」というお話でした。1つの物質に対して、しかも本当に微量の相違という、実際の感覚レベルとはかけ離れた世界に向って行く仕事というのは、精神的にも大変ハードだと思います。お話下さった二人の方々は、そのものの背景をしっかりと意識して説明して下さいました。環境分析においても、サンプリングされてきた試料に向かって毎日毎日同じ事を繰り返していると、目の前の事にいっぱいいっぱい、その試料が抱えているもう少し広い世界の事、また逆に今回のような標準物質や測定機器の精度等のもう少し小さな世界の事も忘れがちになってしまいます。たまには大きく見渡して検体がどんな問題を抱えてここにきたのか、逆に小さく目を凝らして、自分の測定の不確かさはいかほどのものか確認する必要がありますでしょう。自分の仕事がどういった意味や位置にあるかを感じながら仕事をしていきたいと改めて感じました。

午後は、分析室にこもってはお会いすることのできない多くの方とお話ができ、大変楽しく刺激的な時間を過ごさせていただきました。大変実りある一日でした。ありがとうございます。